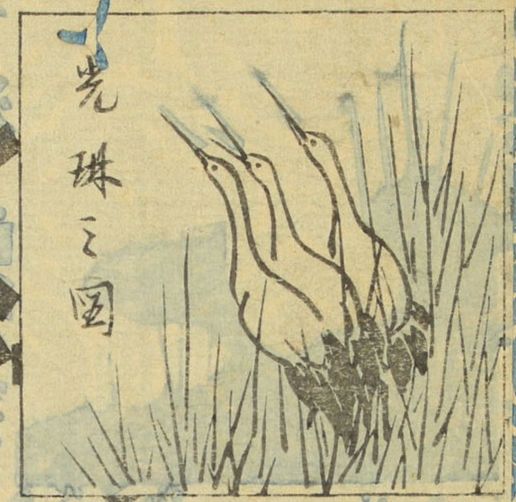


光琳之図

人のつまれんたをつゆ
さしをそ　世我やるをくのたちとかりけり
さらしなの　水くきれ　あわ　梅子

女房所気千
京山作豊国画
嘉永辛亥歌夫
錦猫堂書梓

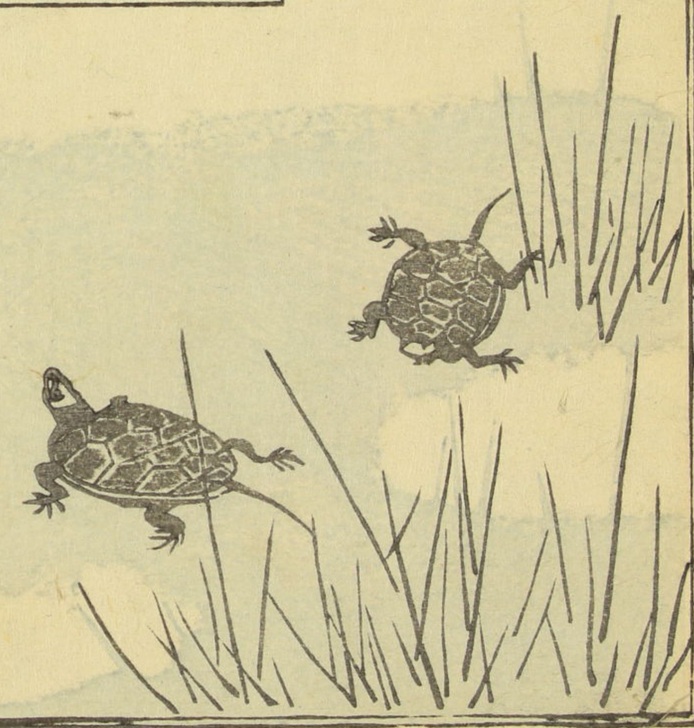
へ13
3703
10

京山作
豊国画
都永四
夾衣形板

門 へ13
號 3703
卷 10

女房形氣

京山きん作
とよ國画
山田や板



女房形氣の仕立あり書肆が銚ふまうせて家毎ふ
狂を帝ね今又十編の絵をあらして初春の振袖とた
さうとど先ゞ夜なべのとり大のりとた繰りあげ京ふ
すらみあとべ行同ごもいとおぞつるあくのきたなけもいろ
ゆやいらんなのれゞ苦れ形されとそ利ざれそち巻
の猛操傳八見千年なる豊國の下絵あとべ
師の橋とおふよぶ板元ゞ十編の襟をおろうくく
めでくき初春のさま著とあり ぬ

嘉永三年 庚戌秋星夕稿本同初冬梓行同四年辛亥発

八十二翁 山東菴京山

[illegible]の晋の世大始年中劉伯玉とゆふ人の妻光明性にて妬忌ふかき洛神の賦とて美人の事をかき

[illegible]なるとこそきゝおよぶめそ[illegible]るかやうなる女をつまとなさばさだめしたゞかしこのよの女[illegible]ばせんくるまゝとたゞ[illegible]てなけれどつまの光明[illegible]洛神とゆふ人[illegible]

伯玉曰彩宮の[illegible]めるひま[illegible]けれどもきのちのつまを[illegible]をつまふりてし姫とゆふべ[illegible]とゆふをたゞれとおのしかふたの夜光明家のやとりの川へ身をなげて死けり[illegible]七日目の夜[illegible]伯玉がゆめあふ身をなげ[illegible]のちのつまをゝとゝ[illegible]そうゝ身をとひもをつまふりたと

のくまひ　ものいれ水ふかの
てし　姫とゐまちとの
のちゐぐくちぎらんまを
てゐまるとゐくとのゐて
つきおとをとけれびてく
ぎてくあとときけびゐが
つまのまぐくきえうせ
けりひのち　伯王ひつまが
月をるげ　川ひまゐう
ぶのひてうざ　とぐまろ
るふかの女ぶやきのちの
とれん川ふぐまろうろ
ん　きゐ女ひ川をひてれば
ゆひうふ浪あくるりて
あやまちあひとのゐ
みめうもちあふ　ゐき女ひと
る時ひ川水つねのごとう
ひゆゐふひ川のひてゐを
婦津と名づけとゐろ

とゐの昼酉日雅組の十四
さろ目又太平廣沉の百
七十三さろ目ゆゐをれがまとゐ
ゐひしゐうまゐひてうゐゐもゐき
ゐちのとれん大地とるひゐ
緒国ふ今もものゐとのまちり
ゐゐふやきりちゐぐちとひまき
ろりゐちるゐりやきりちを
やうんとゐりひひりもの火を
けたひにゐきをひゐうはゐ
てゐまゐと百ゐいうくをゐ
きまれひてゐまゐの風ゐ
ゐそとゐとのゐをゐきちと
うゐふのとぐゐうれとそゐと
ふゐふゐゐれとゐもゐて又
とうゐひとゐゐるゐうゐ
ひけうきひとひのゐゐちゐも
とゐふひのつぐるゐたのど

教州女房形氣十篇初段

万ざえもんつまかへて

玉一

とくろうや万ざえもん

二段

さて万ざゑもんハ小たまをうえたちのぞんとまうしけれバ女房おへうハつねぐ出入するもの(ゝ)をまねきよせて王一ぐちを(か)こそかゞやけてさきゞ女のかのさきとをそれをきてみると万ざゑもん(これ)小たまさまざまいへそうだ(よ)●おへうさいたれぞきつてそんハ(ぐ)てきさる下女とよびてうきにくる王一(きん)それからおへうハかでおうちへまゐらせまる●そうくそもじろにきたかとつかふりつきまぜこ千二(ろ)ハ(ゝ)けれど(も)わかの四ハおへうと(も)それつきてんきぶくうまるぐらそのうちまくる(の)かれ七八(才)のみ(ちゝ)すせり●そこく(は)おへ(かハ)

三段

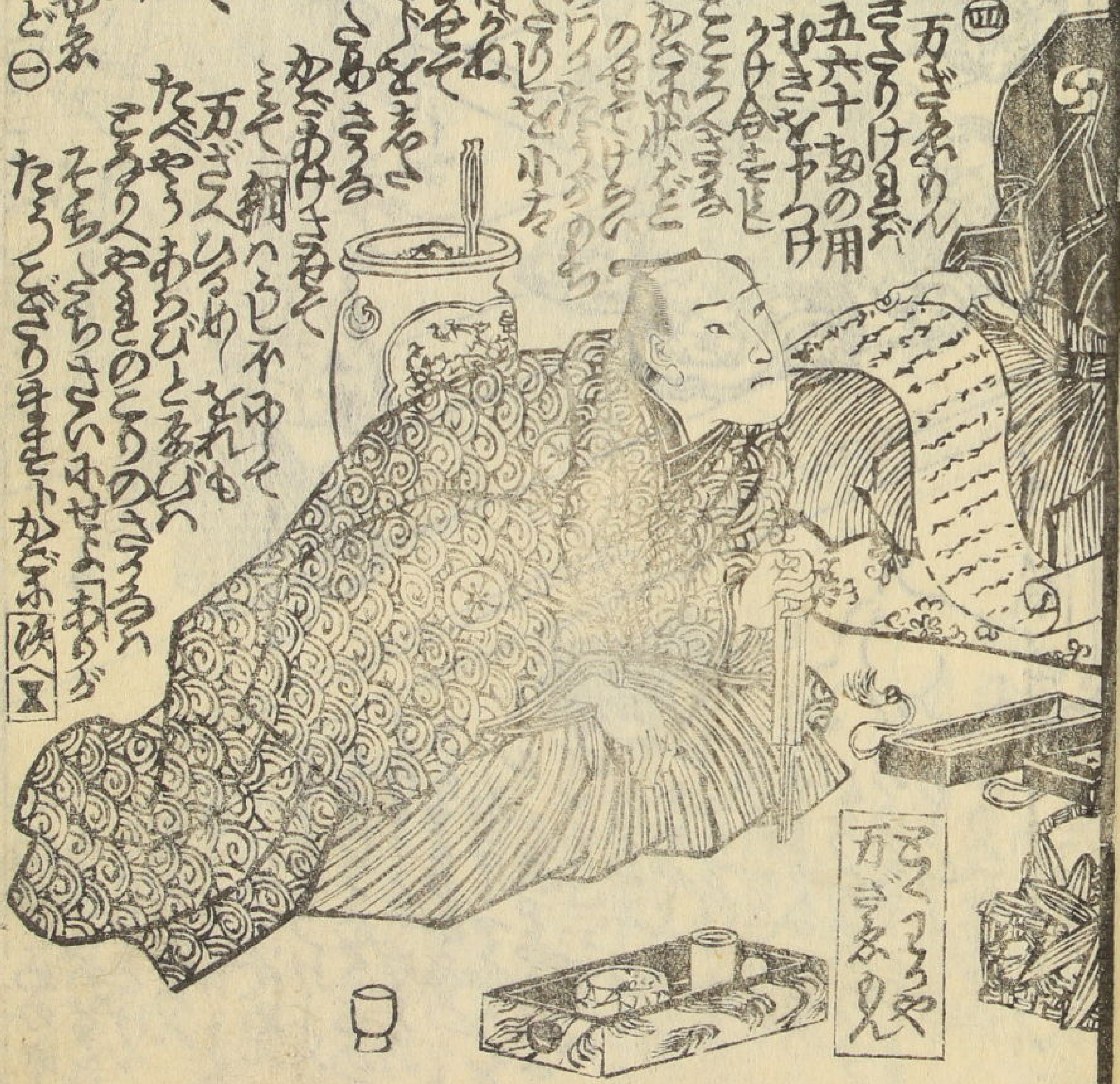
一今あさつかひかうそ(こ)いりやしき(へ)立い(ひ)下女かまうせ(そ)おそれ(ん)かでやまぞめたちのちをまる万ざゑもん
ひの内かくうのめくおやうぞもひとつとんのとかゝいきへうのみこととかんゆへして立のぞけり

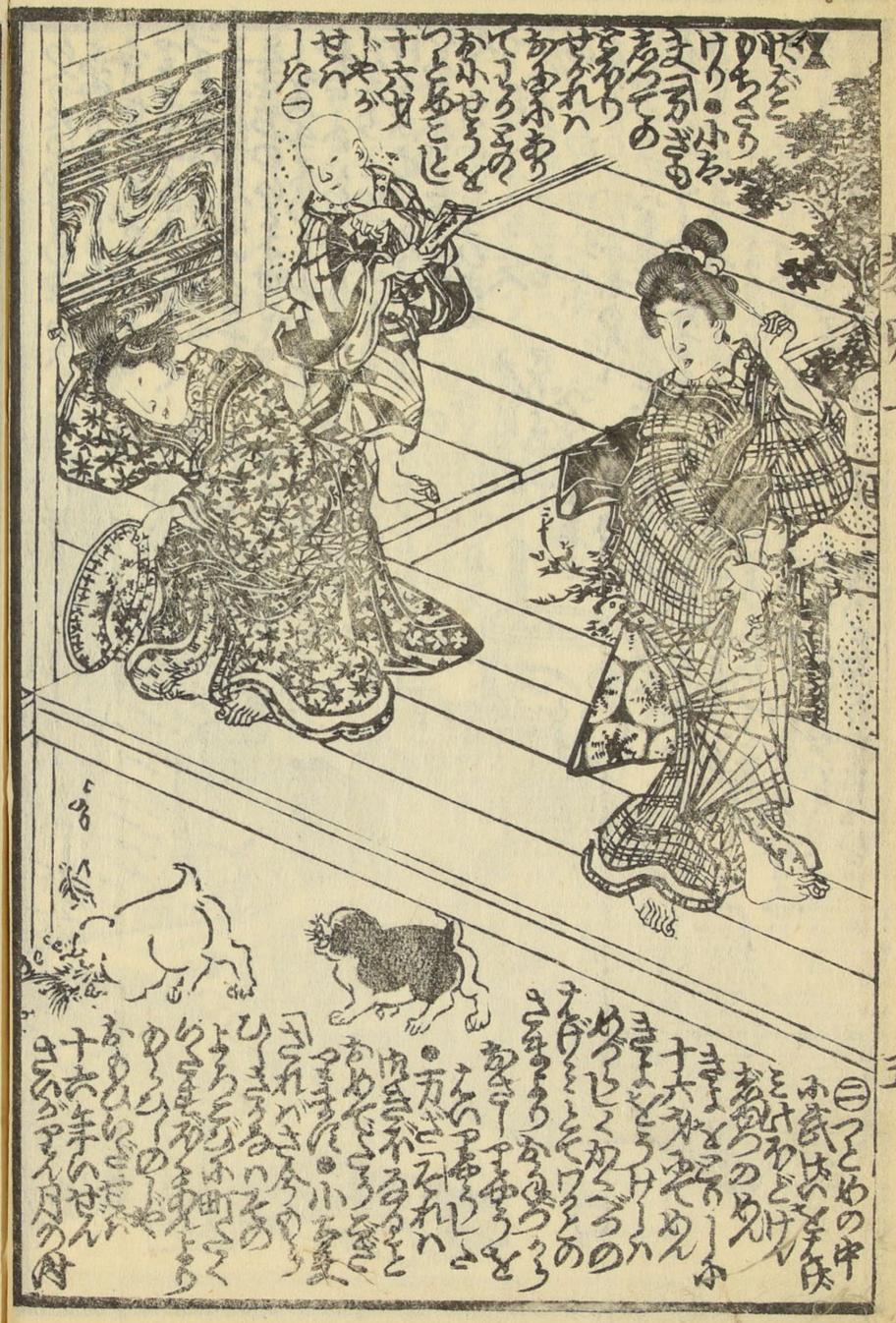
ことふ又衛門(さ)さのけ(は)かかひろ田小たまとぞ
そ一大四十八九歳月
へいをふあわざん
ちんゆそかゝ(ま)
かのうあ
(三)

(二)へつもの

らへつそのすあ(う)そてはまへ万ざゑもん(は)れまとかるかあれがいづそ(ゆ)まかんきぶまきもかんゆんしてつまとそしうとりゆ子するの名小のとそ●ミまでのいそ手世のこりしとうつ手ぶかくしかうあかきいにいとぶえうに万ち(の)とい一子をまきけるありそ今(小)のよかむちあい(は)たゞの下はしきふれまひまるてとあう年六ゝ又小のとあそ子母もあつけおゝのハ八へんにあるせり●万ざゑもんハ小のよが母へも孝をうそきぎあのがきるるそくくべきまぜのさくきにおへいまゞひの内ほそくよりあれそれゆきてあれど入りねとと(い)ひなまるかる万ざゑもんなるものもかんゆんさうるまど
(一)

(四)
万ざゑもんきゝけるり五六十あの用むきをちやうけ合(ま)ところ
のりハそうのあのそけ
きゝ(つ)を小ぞ
女房がねえそぞてべんどをまさ(と)あきる
かゝあけさせてミそ一網へらへ万ざへいるめたべやうあるひとあびハこそり人やまのくりのさうるハそうちきちさへハせよ一あるなたつどぞりまき（か）ぞふ(八)





小方主人
万方主人

方ざまの丸
四隅

いろ田小ち文
千代吉

から四郎
つまかてのこと

五段
万ざえもん
かとう
千代吉

ひろ田小左衛
てらとう平六

京山作

豊國画

千代吉

下のまき へつづく

女房形気十篇上終

千代吉
平六
つんだきのたま
小ちよ
方たろ
ちよ四郎つまおとん

その二

月見そのせうし

六月
月花や清六

ちよう

七月

かくて月見やのてん

清六

千代おが手母

あやくとよびよせ

子代おとときるきあく

いろけるのぎりづく

ゆて月うけさるる

かるうくとくのくかすり

あや子のえんきりとして廿

あけのちゆあんいろまいとの

一れいけとりてくまんきんぐ

今ごろがたてくえそ廿あ

ごとをべーあふぐさあちの

あやく

(三)ろぐこのあ

やどえいさ

(四)あやこのあさろ百あ

ときてきよろと

ろもかくもかち

えさまえもさう

だんーくあのさろ

せんとにだん

いどんだん

ようあやく

そくせーと

ムやこけり

八月

とゆ又

あくくい

月見やよりたち

いでーいよるの丸ごろ

汐のむにさそ云さゆ

百あとこいふあく八十あぐうあ

いちごひるくさまるゆとゆふ

あごろうつきて来やとたる

ちんふあてあきたるきん

ちあくの一ぶをたのこ

ゆて大きろふろやの

二ろのへあり

廿あるくあんでおらうるゆと

ひけれがあくあぐーふ

とうこけ「ゴよすいのの

よゆあゆあ一れあいるゆと

あるろあるぬふけのちゆん

ゆふちのとのやくとくるう

百あと一ゆるのてもいやで

ぐんまトきて清六

いろくふいろひ

けとともあくく

千代おとそざ

てるのいろ

うそ八百と

らひるくぐ

さくふく

あんせざる

ゆああるくぐ

ゆうけのゆ

トつええるる

とうびふあべ

まづけのくられよと

ちくをくーけり

さて清六ハ

万ざゆのあり(一)

万ざゆのんをよび

いづーあくぐ廿あ

あそふそあんせざる

ようとくろけるべ

万ざゆり(三)

だいのぶ

のたこ

さまぐのたべ

あのあくく

ひとりゆ

おゆくの

茶さん

汐

ふたなさ

ゆて

こそとち

のぐかどや

あくぶのりて

ゆんとなりゆ

のもおなりぐ

つきーゆあ

るりけとき

たぐこふあこと

やゆとあろーひとり

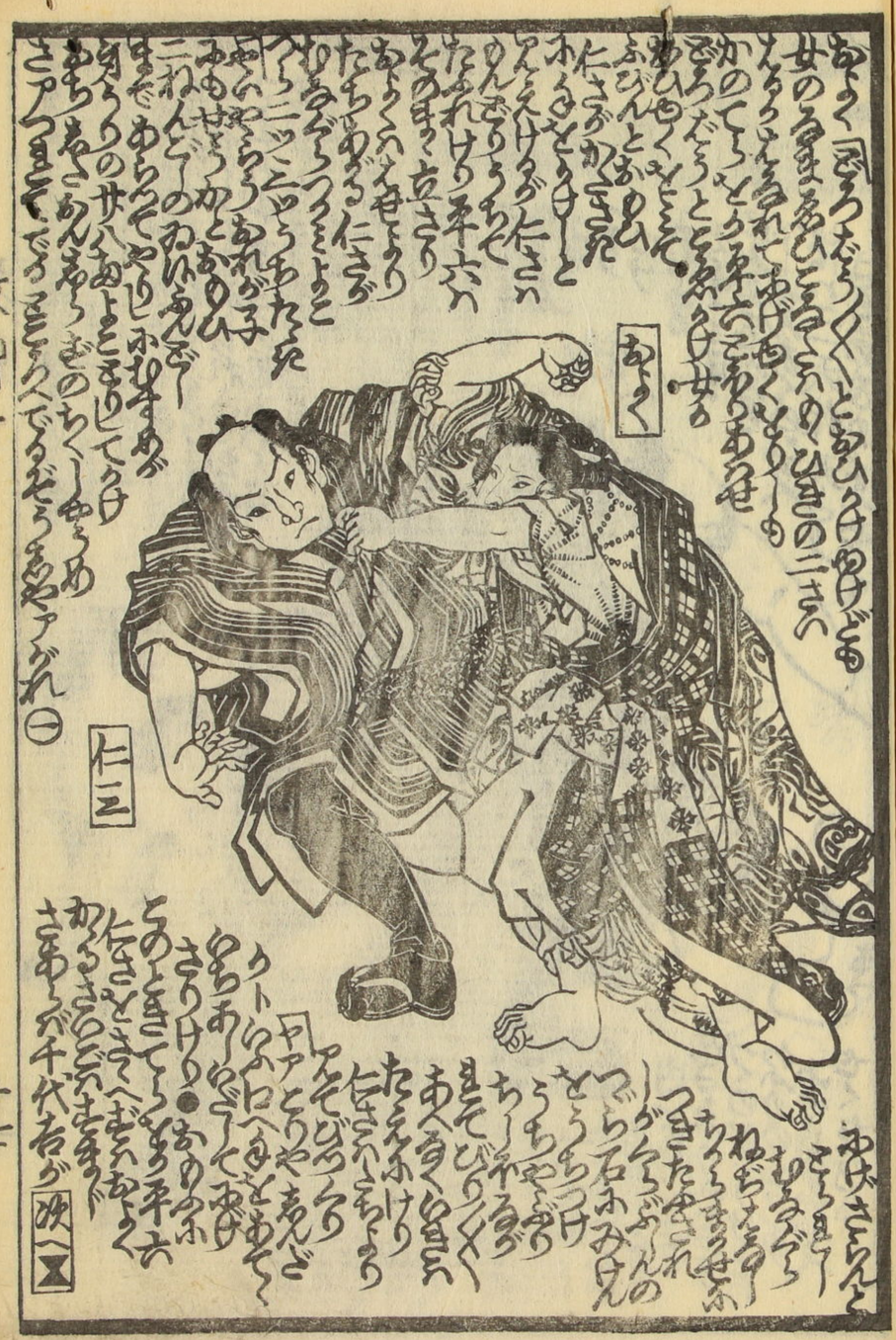
の男つたゆて

あるこをたべて

あるところく

あくく

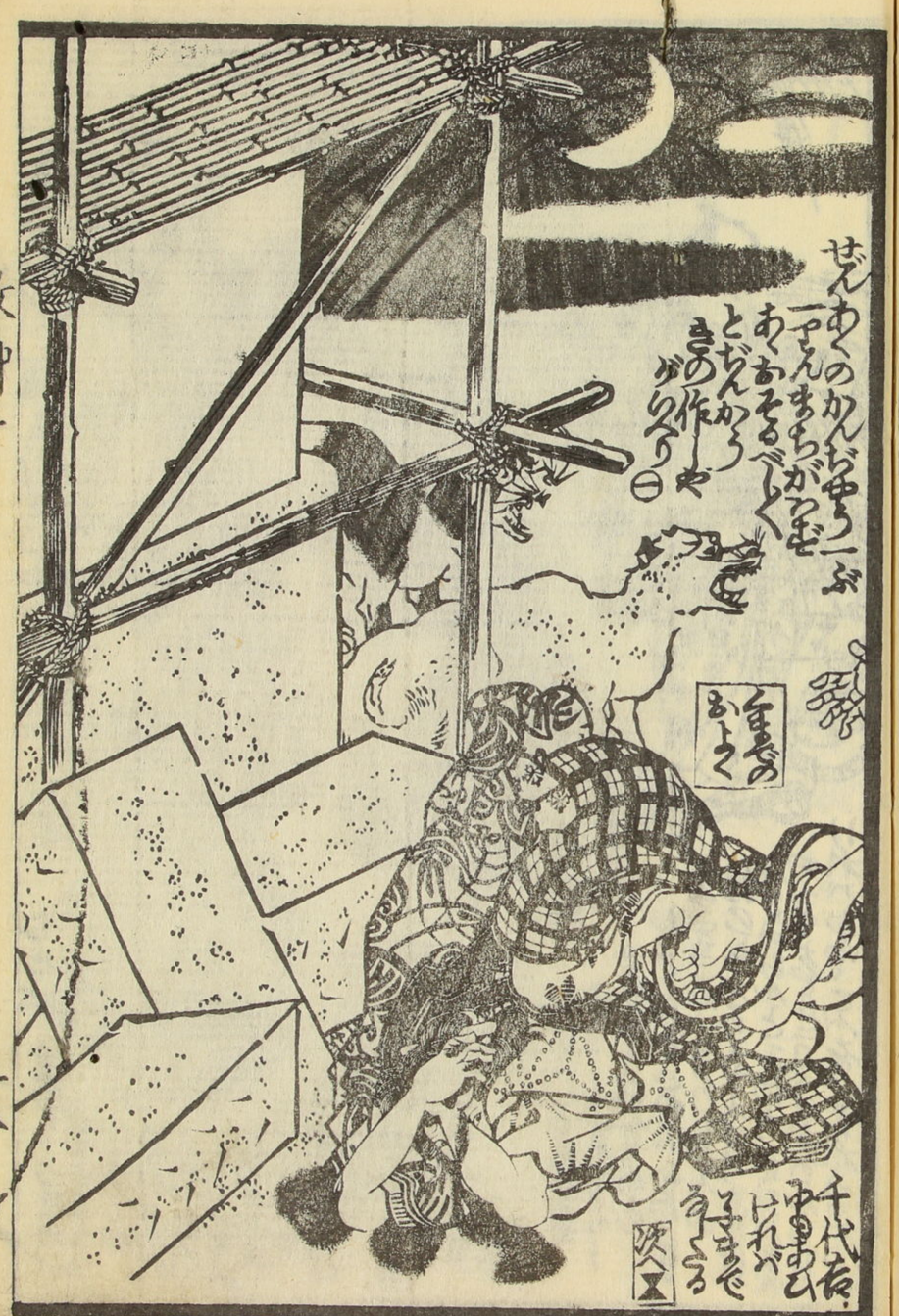
千年万年


あらく
仁三

月うけ百あのゆきうけ
さくなりとうりてまらくとう
うけかうるまりけれど百あ
こうんとうひゆくくふあ
たるつくくあくくられくあん
母ろぐくそぐられくあんを
つまれざまるの母ふめぐり
あひてもまく母とまて
ざりー千代おぐ
知ら天さうさま
あるまこまひて
たさうゆを
かりあくく
ゲあこまを
きり石
ゆを
こりつけ
知めるる
天さうさま
のそうぐえる
べ、ぜんあくのひス
然れ二天作天さう
さまのるりふあて

(二) 九段

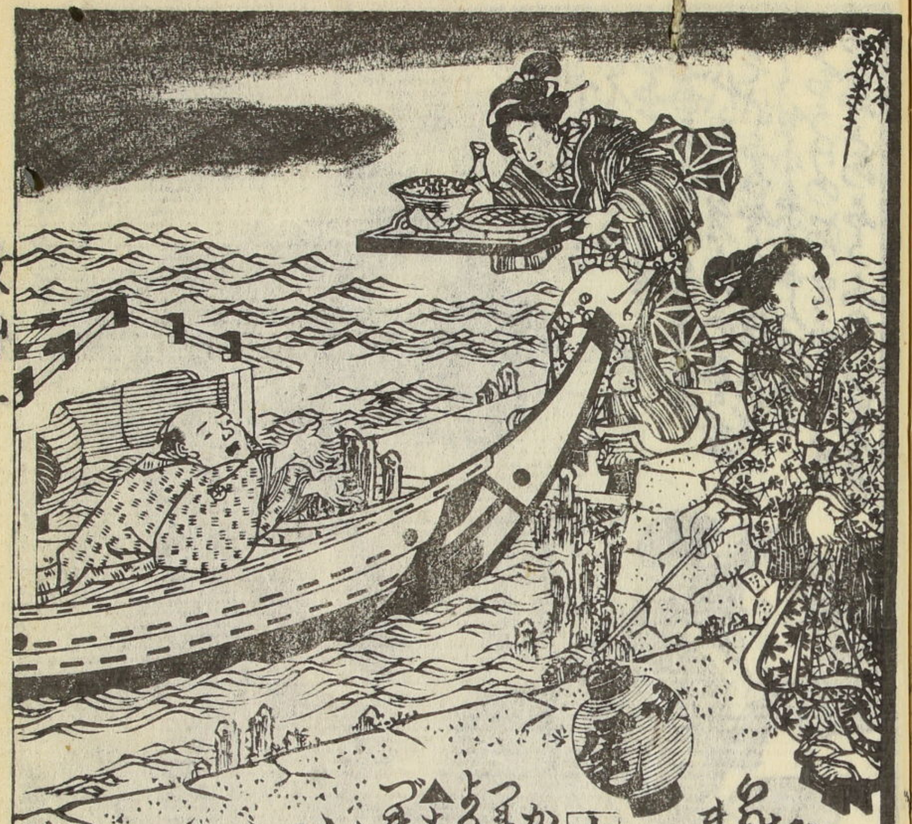
とふ又
万ざふ
ゆん千代おを
ゆうけのゆを
月見やくびく
ゆきけるを
やたのちの
あへをへて
ふくかし
ちくぶのあや
まきへとて
内とうるさを
万ざふゆんぐり
づのゆうけを
ふのゆをゆを
ゆを月見やく
やくたびふ



せんあくのかんぢゆう一ぶ
一ぷんまちがうぞを
あおそるべしく
とぢんかう
きの作ゆ
ゆうり(一)

千代おゆ
ゆあひ
ければ
ゆをを
うくる

次へ



ものごりの百あまりのもの
やくそくの七十あまりて千代吉
をめでらく身うけのかどのでを
ものいとせまりをあきてるやねぶみ
まで大せのかくる千代吉が
うまれつきのかごとのやとる者
あこをぬけくるうをのごと

十一匁

かくて方ざまのん千代吉を
つまとせるやとぐあちつたくるへ
よるのふっごろるりけり
▲あふ又方ざまのんがかく
づまとしたかのてうをとり平六くへ
あづけあくふ糸い方ざまのん
千代吉ふあいそふよりは
ふのうをいろ身うけまるるもいへ
あく方ざまのんくうけれども
小糸まとーもでんきのこころ
ろきなる千代吉中も方ざま
のん中もいををりてもんとて
千代吉をまちうけるかう
ふのよる女かとかれもこうて
けまるやどの中まんを決へ

千代吉

一方ざまのん

十匁

▲かくづまの
小糸ふり
つがこの
義の千代
吉がめう
らくあり
むらろふ
あくるまと
ちぶの事たへ
やくことのくがるふう
そらくまるをやきまちの
おくまあろをつけるを
方ざまのんあくざり
けり

かりに門をのぞき
あーど千軍をたて
るのるくらまでの
をくりぞこあの石ふあくま
をんごきまくるの日どろの
酒のちどりあつまつきこけ
しるるらんとをのうをこ月義
やへもあまと方ざまのんもきて
けれがあやこぶををられるあり

おさん
やきもちあへと

小糸
千代吉
かひよの

京山作 豐國画

(四)ひきつゞき出板仕れ申候

(三)ことけそ
ありしろく
さりさく
又千代君
あちらこそ
こゝかと
たりしくしとき
ちぎりくるはてふ
うのをりやきをど
るのつぎの
十一ぺんふまり〜(三)

女房形気十篇下の巻終

辛未孟春錦橋堂新梓

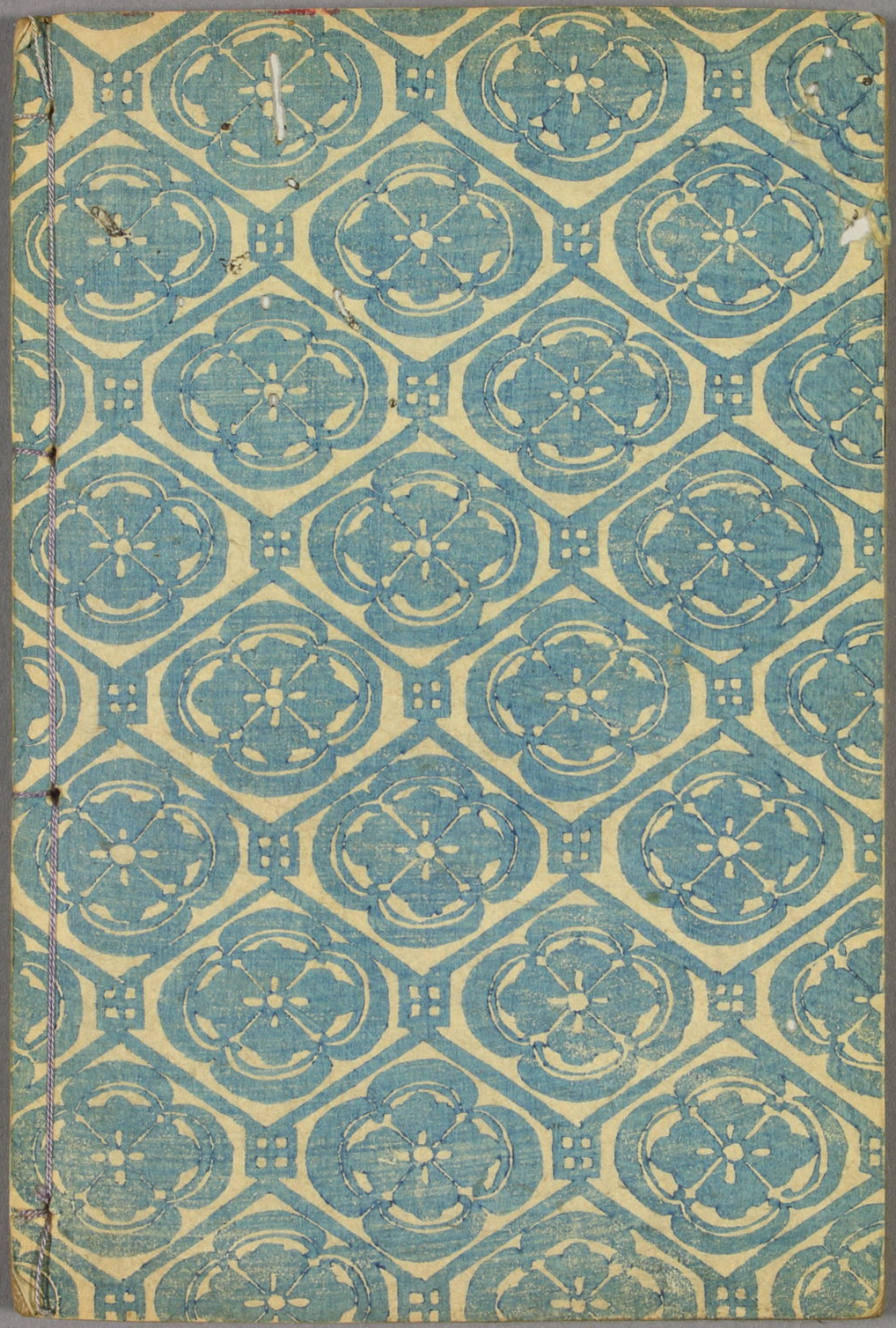
英雄五大力 四編 万亭應賀作 五編 一陽齋豐國画

葛の葉九重錦 五編 同 大尾 同 作画

浮寝鳥朧漣 三編 空中楼花咲作 四編 一陽齋豐國画

濡燕稲妻艸紙 初編ヨリ玉川亭調布作 五編マデ錦朝楼芳虎画

口中治養 固齦散 大包代百銅 小包代三十二銅

功能 一ぬけ歯一うき歯一歯ぐきよわき 一うみ血一血ぐる。月代かう紙書くわかりしれ

賣弘所板元 中橋廣小路 山田屋庄兵衛